地域活性化に資する効果的な農福連携プログラム理論の検討

－文献レビューと先進的事例調査による暫定版プログラム理論の作成－

○　大妻女子大学　　藤本　優（8935）

新藤　健太（群馬医療福祉大学・8608）

キーワード：就労継続支援事業　農福連携　プログラム評価

１．研 究 目 的

本研究の目的は、地域活性化に資する効果的な農福連携プログラムモデル(以下、効果モデル)を構築することである。[i]

近年、地域共生社会の実現に向けて、障害者の就労や生活支援など様々な取り組みがされているが、共生する地域は、過疎化の進行などにより自らの地域を維持できる力を失いつつあり、地域共生社会の実現に向けての取り組みは地域を維持する取り組みと同時に行っていかなければならない。

地域を維持する一つの取り組みとして障害者就労継続支援事業では、農業と福祉を連携させる「農福連携」を実施している。しかし、農福連携の実施に関しては、認知度やマニュアル不足、取り組みが拡大していかない、などの課題がある。

これらの問題は農福連携を実施するための効果的なプログラムが存在しないこと、得られる農業の成果や障害者の成果がわからないこと、その成果を測るためのゴールが設定されていないことに問題があると考えられる。そこで、本研究では、社会福祉分野における社会問題を解決することを目的とするプログラム評価の理論と方法論を援用したCD-TEP評価アプローチ法を活用し、効果モデルを構築することを目的として実施した、文献レビューと先進的事例調査による暫定版プログラム理論の作成に焦点をおいて報告をする。

２．研究の視点および方法

プログラム評価では、効果モデルの設計図を「プログラム理論(インパクト理論、プロセス理論)」として可視化し、整理する(Rossi et al.2004)。本研究においては、農福連携に関する実証研究、実践事例などを読み込み、それらの文献をプロセスとアウトカムに分けてそれぞれの文献からプロセスに必要な要因と､アウトカムに必要な要因を抽出･分析し、暫定版効果モデルを作成した。さらに、この分野における先進的な実践を行う事業所を対象にした聞き取り調査を実施することで、暫定版効果モデルの改訂作業を行った。

３．倫理的配慮

本研究は「大妻女子大学生命科学研究倫理委員会」の承認を受けて行った。なお、本研究は共同研究であり、共同研究者の承諾を得て発表する。

４．研 究 結 果

文献レビューと GP 事例調査の結果を通して「地域の農業が活性化する」というプログラムゴールに対して、それぞれ「農家・地域の変化」「障害者の変化」「製品の変化」という成果の流れが明らかになった。また、それぞれの変化を促す働きかけとして「農家への働きかけ」「障害者への働きかけ」「消費者への働きかけ」の具体的な活動が明らかになった。また、これらの成果を促す組織には、障害者就労継続支援事業所と農家以外にマッチングセンターや JA、行政とどのような協力関係を作り出すことが必要なのかという組織作りが明らかになった。

５．考 察

本研究において作成された効果モデルでは、農家及び地域が農福連携を実施することによる変化の流れを可視化したことで、農家が農福連携に取り組む見通しが立てやすくなったと考えられる。これまで、農福連携を知らない、もしくは、障害者に対する不安から取り組めずにいた農家へのアプローチの一つとして効果的であると考えられる。

また、障害者が農業に取り組むことの変化が明らかになったことによって、農福連携をしてこなかった事業所はもとより、農業を実施していた事業者も農福連携を通して障害者と農家がどのように協働するのか、地域と共生していくための方向性が明らかになり、より取り組みやすくなると考えられる。

障害者が農業に取り組むことで、農業のスキルやコミュニケーションのスキルが向上し、農作物の品質も向上していき、市場への安定的な供給が叶い障害者の工賃が向上する、となるように、障害者の変化と製品の変化が非常に密接にかかわっていることも農福連携の特徴の一つである。それは、自分の作る商品が売れることが直接的に障害者に伝わるためであると考えられる。

しかし、一方で、いいものを作る、商品を売るということは農業に取り組んだことのない事業者においては、判断が難しいことも事実であり、本効果モデルでは、製品の変化や消費者への働きかけのための具体的活動にも言及したことも、この効果モデルの特徴の一つであると考える。

本研究の結果これまで農福連携を行ってきた全国の先進事例で行われる創意・工夫の取り組みが可視化された。次はこのモデルの妥当性を検証する具体的な調査研究に取り組んでいきたい。

---

[i] 本研究は「地域活性化に資する効果的な農福連携プログラムモデルの構築に関する研究（科学研究費補助金基盤研究（C）藤本優）」による。

参考文献

Rossi, P. H., Lipsey, M. W. and Freeman, H. E. (2004) Evaluation：A Systematic Approach, 7th Ed., Sage Publications. （=2005, 大島巌・平岡公一・森俊夫・他訳『プログラム評価の理論と方法～システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社）